

コネクションプーリングが使用出来ない環境での高速接続の方法

クライアントからの接続を高速にするために、データベース常駐接続プーリング (DRCP) を利用する

アプリケーション・サーバーやプログラミング言語で、コネクションプーリングが用意できない場合に、データベース側で用意するコネクションの仕組みを云う

【仕組み】

データベース常駐接続プーリング (DRCP) を使う

事前インストールは、不要です

ただし、アプリケーション・サーバーでの DRCP サービスの起動が必要となる

【操作方法】

1) データベース・サーバーでの DRCP サービスの起動方法

~~アプリケーション・サーバー~~

注意)

以下の起動操作については、**SYS ユーザー**を **SYSDBA 権限**で接続して行うこと
SYSTEM ユーザー等では、「ORA-04043: オブジェクト DBMS_CONNECTION_POOL は存在しません。」となり実行出来ない

「起動」方法

```
SQL> EXECUTE DBMS_CONNECTION_POOL.START_POOL();
```

「停止」方法

```
SQL> EXECUTE DBMS_CONNECTION_POOL.STOP_POOL();
```

2) クライアント側の設定変更

・ tnsnames.ora を使用する場合

接続文字列に、(SERVER = POOLED)を記述する

接続記述子 =

```
( DESCRIPTION =  
  ( ADDRESS = ( PROTOCOL = TCP ) ( HOST = <ホスト名>  
    ( PORT = 1521 ) ) )  
  ( CONNECT_DATA =  
    ( SERVICE_NAME = <サービス名> )  
    ( SERVER = POOLED ) )  
  )  
)
```

3) クライアント側からの接続方法

・ SQL/PLUS からの接続方法 (簡易接続の場合)

```
$ sqlplus <ユーザー>/<パスワード>@<ホスト名:ポート番号>/<インスタンス名>:POOLED
```

4) 接続が DRCP で出来たかの確認方法

- ・ V\$SESSION での確認

```
SELECT SERVER FROM V$SESSION ;
```

```
SERVER
```

```
-----
```

```
POOLED
```

DRCP で接続されたセッションには、V\$SESSION ビューの SERVER 列に POOLED と表示される

- ・ リスナー・ログの出力での確認

サーバーのリスナー・サービスからの出力ログ

SERVER = POOLED が表示される

```
( CONNECT_DATA = ( SERVICE_NAME = orcl ) ( SERVER = POOLED )  
( CID = ( PROGRAM = sqlplus ) ( HOST = rac11gr2-node01 ) ( USER = oracle ) ) )  
* ( ADDRESS = ( PROTOCOL = tcp ) ( HOST = 192.168.1.82 ) ( PORT =  
23662 ) ) * establish * orcl * 0
```